地域の安全のために『一致団結！』

DAN!!

宮崎県消防団だより「ダン!!」

[Vol.09]

2016.11 “November”

[特集1] 屋内消火栓操法訓練リポート

宮崎大学学生消防隊始動

[特集2] 平成28年熊本地震における御船町消防団の活動

災害時に発揮される消防団の力

消防防災関連情報!!

宮崎県防災・危機管理情報のホームページ
http://www.pref.miyazaki.lg.jp/kiki-kikikanri/kurashi/bosai/bosai_kikikanri_joho.html

総務省消防庁のホームページ
http://www.fdma.go.jp/

いざという時に本当に頼りになるのは地域に住む消防団員だと思います。

宮崎大学の5つ目の学部として平成28年に新設された地域資源創成学部。地域づくりのリーダーを育てるこの学部で、「地域の防災を担いたい！」という学生有志が集まり、サークル『宮崎大学学生消防隊』が発足しました。ここではメンバーが宮崎南消防署の協力を得て行った体験訓練の様子をリポートします。

10月某日、宮崎南消防署には、9名のメンバーが集まりました。サークル自体が発足して間もない中、今回の訓練は南消防署の全面協力のもとで行われることもあって、最初はさすがにみな緊張の面持ち。訓練が始まると、署員の一挙手一投足を見逃すまいと、真剣なまなざしで見つめていました。

宮崎南消防署の隊員から消火栓について説明を受けるメンバー。みな開けた経験がなく、興味津々。

訓練は屋内消火栓操法からスタート。屋内消火栓の仕組みや基本的な動作について、署員から丁寧な説明がありました。「皆さんは消火栓を開けたことがありますか？この消火栓は学校や大きなスーパーなどに設置されているタイプで、15mのホースが2つ入っていて、火災の際は2つをつなげ、30mのホースとして使用します。消火栓の中には30mのホースが1本丸まって収められているタイプもあります」（署員）。メンバーはみな消火栓を開けた経験がないそうで「小学生の時に先生から遊びで開けてはダメと言われていたので、中を見たのは初めてです」「中はこんなふうになってるんですね！」と興味津々。署員のデモンストレーションの後、メンバーもホースを30m先まで運び、放水に挑戦しました。ホースを抱えた椎屋さんは「ホースを抱えたのも初めて。はたから見ていると簡単そうで

15mのホースを2本つなぎ、火元へとダッシュ。隊員のきびきびとした模範動作に一同感嘆の声！

ホースを抱えて30m先へ…と、途中でホースが落ちそうに。「ここをもっとこう抱えて…」と隊員も走りながら指導。

学生消防隊始動

したが、実際にやってみるとうまくいきませんでした。いざという時に使えるように訓練しておかなくては、と思いました」と決意を新たにしていました。

操法訓練の後は、水消火器による消火訓練。まず署員から消火器の取り扱いについて指導を受けました。「消火器は、一家に1台は用意しておくことをおすすめします。ちなみに、消火器は1年に1回ぐらいはこうして（顔の辺りまで持ち上げて）振ってあげると長持ちするんですよ」（署員）。訓練ではメンバーが代わる代わる消火器を手にし、火元と見立てたコーンに向かって放水しました。挑戦した原田さんは「小学校の防火訓練で、はしご車に試乗できることに。約20mの高さに上昇したメンバーは口々に「高ーい！」「うわー！」などと感嘆の声を上げ、下で待つメンバーの呼びかけに応じて写真を撮るなど、滅多にできない体験に大喜びでした。

訓練用の水消火器を使っての消火器訓練。「火事だ！」という声を合図に、火元に見立てたコーンに向かって放水！

学内の消火栓を使うなど、学内でできる防災活動に取り組みます！

学生消防隊隊長
竹田（たけだ） 卓生（とおい）さん
宮崎市消防団木花分団 第5部所属

消防団の活動を通じて、将来は救急救命士の資格取得を目指します！

学生消防隊隊員
椎屋（しいや） 絢音（あやね）さん
宮崎市消防団女性分団 所属

隊員は、男性7名、女性5名の計12名。全員、宮崎大学地域資源創成学部の1年生です。

以来なので、とても新鮮でした」と満足げな様子でした。

最後は署員の皆さんの計らい

設立のきっかけを作った竹田卓生さんは、学生が消防団で活動することについて、万が一の時に動けるメンバーが常に学内に居続けることが大学や周辺地域にとって大きな力になると話します。「そのためにも、みんなが地元の消防団で活動しながら、学内でも消火栓を使った訓練などを継続してできるようになるのが理想です。災害の時に本当に頼りになるのは、地域に住む消防団員だと思います」（竹田さん）。将来は公務員や消防士など、地域に貢献できる人材になりたいと口を揃えるメンバー。本県の地域防災を担う未来のリーダーとして、活躍が期待されます。

学生消防団活動認証制度

消防団員の平均年齢が上昇する中、地域の防災を支える貴重な人材として期待されているのが大学生です。宮崎市では大学生の消防団活動への参加を促すため、平成28年6月1日から「宮崎市学生消防団活動認証制度」を開始しました。

この制度は、①大学生の消防団入団を促すこと、②入団して活動する大学生の就職活動を支援すること、という2つの目的があります。認証の条件は（1）大学生、大学院生、専修学校生および各種学校生(以下、大学生など)が対象、（2）在学中に消防団員として1年以上継続的に消防団活動を行った場合や、消防団活動で特に優れた功績があった場合、となっています。企業にとっては認証を受けた大学生などを採用することで、災害発生時の早期対応が期待でき、危機管理体制の強化がはかれるというメリットがあります。

定員の都合はありますが、基本的には18歳以上の健康な人なら誰でも入団することができます。

県内では、ほかに綾町でも導入しています。

求ム！学生消防団員

宮崎県内の消防団では、年齢18歳以上で消防団活動に参加できる人を募集しています。団員の年齢層は幅広く、自営業者、サラリーマン、学生、主婦など様々な人が集まっています。入団希望者は、お住いの市町村役場又は消防本部へお問い合わせください。

［特集1］
屋内消火栓操法訓練リポート

宮崎大

［特集2］平成28年熊本地震における御船町消防団の活動

災害時に発揮される消防団の力

平成28年4月14日21時26分以降に発生した熊本県を中心とする一連の地震活動により、家屋の倒壊や大規模な土砂崩れなど甚大な被害が発生※。各消防団は、震災直後から消火・救助活動、安否確認及び避難誘導を行うとともに、避難所での活動など地域の安心・安全を守るための幅広い活動を実施。今回は、大きな被害を受けた熊本県上益城郡御船町の消防団に当時の状況を伺いました。

※平成28年4月14日21時26分に震度7（前震）、同月16日1時25分頃に震度7（本震）の地震が熊本地方でそれぞれ発生

御船町消防団 ［9分団31班416人］

御船町での動き ※震度は御船町における震度

4月14日 21時26分［前震］ 震度5強（マグニチュード6.5）
前震後、役場に消防団を含む災害対策本部を設置。消防団は夜通し活動を行う。

4月15日 0時3分 震度5強（マグニチュード6.4）
震度5強など激しい余震が続く中、避難所の設置や、水や食料の配布などを行う。

4月16日 1時25分［本震］ 震度6弱（マグニチュード7.3）
本震が発生。町内全体のライフラインが絶たれる事態に。ピーク時には6,300人を超える人が避難生活を送る。

前震発生直後から4月末まで、のべ2,200人を超える消防団員が出動し、危険箇所の封鎖、住民の避難誘導、広報巡回などを行った。

熊本地震における人的・住家被害（御船町）

人的被害	死者	2人（震災関連死疑い1人）
	重傷者	7人
	軽傷者	10人以上
住家被害	全壊	373件
	半壊	1,505件（うち大規模半壊287件）
	一部破壊	2,174件

※平成28年8月22日現在

―地震発生直後の動きについてお聞かせください。

内村団長（以下、内村） まずは団員間の連絡手段ですが、地震発生直後は携帯電話が通じず、いろいろと試したところLINEの無料通話がつながりました。あらかじめ、緊急時の集合場所を決めていて、連絡がつかなくてもそこに集まった分団もあります。

吉田副団長（以下、吉田） 前震の直後に集まれたのは、各分団10人前後でした。まずは道路等、被害状況を確認し、一人暮らしの高齢者を中心に安否状況を確認。その後、避難誘導を行いました。山間部で一軒、火災が発生したので、その対応にも当たりました。

内村 その後も大きな余震はひっきりなしに起こりました。震度5程度の揺れなら、「これくらいなら大丈夫」という錯覚に陥るほどでした。

そして、16日の未明に本震が発生したのですが、その揺れによって倒壊した家屋の下敷きになったご夫婦がいたんです。

吉田 私も対応に当たったのですが、2階が1階を押しつぶしている状態で、奥様が梁の下敷きになっていたんです。消防署は、さらに被害が大きかった地域の救助活動に当たっていたため、消防団が救助に当たりました。

ご主人は無事救助できたものの、ひっきりなしに余震が続く中、懸命の対応をしたのですが、奥様は残念ながら…。あの場に、チェーンソーやジャッキなどの資機材があれば、もしかしたら

御船町消防団
吉田 髙之 副団長

結果は違っていたのかもしれません。

―消防団員自身、被災されながらの活動だったんですよね。

内村　そうです。前震直後は、まずは身内の安全の確保を行ったのですが、その後は、地域のために、自分のことはそっちのけで消防団活動に。みんな本当に良くやってくれました。

吉田　「地域を守る」という気持ちだけで、活動をしているのですが、今回の震災を通じて、地域の人から本当に頼りにされているんだということを感じましたし、「ありがとう」の声が支えになりました。

御船町消防団
内村 光宏 団長

―震災対応はどれくら続いたのですか？

吉田　一般の団員は4月いっぱい。本部は、ゴールデンウィーク明けまで対応に当たりました。具体的な活動としては、避難所での物資の配給や、交通誘導、給水車の時間等の広報活動でした。

内村　その間、仕事の融通が利く人ばかりではなかったので、人員の確保には苦労しましたね。

―今回の震災対応を通じて感じられたこと、そして今後の課題をお聞かせください。

内村　各機関で情報を共有することが大切だと痛感しました。当初は、入ってくる情報が二転三転して、現場に行ってみると話が違うというような状態だったんです。

　その後、東日本大震災の支援を経験されていた山口県の職員からのアドバイスで、毎朝、消防署、警察、役場、自衛隊、消防団が集まってミーティングを行うようになったんです。それからは、効率的な活動を行えるようになりました。

吉田　今後の課題としては、人員の確保、資機材を充実させ、それを使いこなせるようになること、そして何よりも大切なのは、地域住民とのつながりを強化することですね。つながりがしっかりしていれば、何かが起きてもお互いに協力して対応できますから。

内村　震災後は、各団員の意識が高まり、自ら積極的に動く団員が増えました。

　消防署や役場との連携がスムーズになったことで、台風が接近したときも、早めに対応することができました。

　今回の震災は、不幸なことであることに間違いはありませんが、この経験をしっかりと生かして、これからも地域の安全のために尽くしていきたいと思っています。

消防団の活動人員 ※平成28年5月4日現在（消防庁）

熊本県

延べ活動人員	約59,000人 ※4月15日～5月4日
最大活動時人員	約9,200人 ※4月17日

大分県

延べ活動人員	約4,700人 ※4月16日～4月17日

消防団の主な活動

震災直後の活動

◎消火活動
◎倒壊家屋等からの救助活動
◎土砂災害現場における活動
◎住民の安否確認、避難誘導

その後の活動

◎避難所運営の支援
給水活動、炊き出し、食料配布、搬入支援

◎エコノミークラス症候群の注意喚起
避難所等での呼びかけ

◎被災地域での巡回・警戒活動等
被害確認・空き巣窃盗等の防止等を兼ねた定期的な巡回
土砂崩れの警戒
堤防一部崩落の応急処置
立ち入り禁止区域への車両進入の警戒 など

SASUGA!!

消防団ならではの機転で問題を解決！

　避難所では、水がないのでトイレを洗浄できないという問題がありました。そこで、消防団では積載車でスポーツセンター内のプールの水をくみ上げ、トイレのそばに設置した操法用の水槽へ。これによって、トイレを洗浄できるようになり、問題を解決することができたのです。地域に寄り添う消防団ならではの行動ですね。

地元の安心・安全守りたい！

我ら、消防団員

今回は日之影町消防団を紹介します！

賞状

後藤

貴部は第三十五回宮崎県消防操法大会小型ポンプ操法の部において頭書の成績を収められましたのでこれを賞します

平成三十八年八月三十日

宮崎県知事 河野 俊嗣

全国大会を前に河野知事を表敬訪問しました。左より、指揮者／戸高昭則さん、1番員／坂本善行さん、2番員／工藤光弘さん、3番員／奈須龍也さん、吸管補助員／甲斐達也さん

どこにも負けない団結力 部員みんなで勝ち取った全国大会

日之影町消防団 第3分団第13部

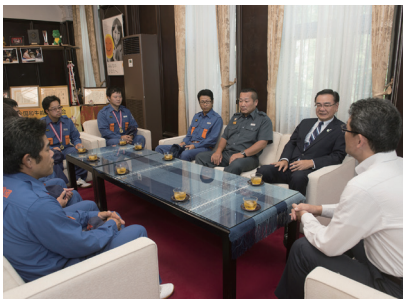
県の消防操法大会で優勝し、見事、全国消防操法大会への出場を決めた日之影町消防団第3分団第13部。ここまでの道のりは、決して平坦なものではありませんでした。

全国大会出場を目指し、4月から連日のように厳しい練習を行って臨んだ日之影町大会。その結果はまさかの2位。3位までは西臼杵支部大会に出場できるのですが、自信を持って挑んでいただけに、優勝できなかったことに、みんな悔し涙を流したのだそうです。

「日之影町はどの部もレベルが高いので、まずはここを突破するのが大変なんです。そのために、厳しくて、泥臭い練習を毎日重ねてきましたからね」と佐竹部長。

その悔しさを胸に、さらにハードな練習を重ねて挑んだ西臼杵支部大会は、見事リベンジを果たして優勝。その勢いのまま県大会を制し、全国大会の切符を手に入れました。

「うちの強さは団結力です。練習には要員だけではなく、部員全員が参加します。前年の要員がそれぞれの担当を指導するのですが、さらにその先輩たちも一緒になって、部を強くしていくんです。そうやって築きあげてきた伝統が結果となって現れているのだと思います」と力強く語ってくれました。



日之影町消防団
第3分団第13部 部長
佐竹 健児さん

イチオシ団員

第13部の料理番

日之影町消防団
第3分団 第13部
工藤 啓之さん
［消防団歴2年］

町内の介護施設に勤務する工藤さんは、8年のキャリアを持つハンターでもあります。第13部の忘年会などで、捕獲した猪や鹿を自ら料理してふるまうことから、工藤さんについたあだ名は「13部の料理番」。団活動はもちろん、宴会にも欠かせない存在だそうです。「私たちの使命は地域の人々の生命と財産を守ること。13部は家族のようなつながりがある素晴らしい部です。これからも、力を合わせて地域のために頑張ります！」

消防団協力事業所紹介 1

(株)三郎建設（日向市東郷町）

平成22年11月に日向市から、平成24年2月に消防庁から消防団協力事業所として認定されています。

地域あってこその会社です

代表取締役社長
黒木 文也さん
日向市消防団
第9分団 第41部

消防団を通じて地域に貢献

30年以上にわたって、日向市東郷町で土木・建築・水道施設工事業を行う三郎建設。20代後半から40代半ばまで、14名のうち8名と、社員の半数以上が消防団に所属。社長の黒木さんももちろん消防団員。会長は旧東郷町消防団の団長を務められていたという、消防団と縁の深い会社です。

なぜ、消防団への加入率が高いのかを尋ねると、「決して強制しているわけではないんですよ（笑）。地元にお世話になっている企業として、地域に貢献できることに積極的に取り組んでいるだけです。消防団活動はその一環なんですよ」と黒木社長。

社員のみなさんには、仕事中に消防団から出動要請があったときは、仕事より団の活動を優先するように指導しているのだそうです。出動のために抜けた人の仕事は、他の社員が協力してカバー。そのための連絡体制も構築しています。

台風16号で被害が出たときにも、同社の消防団員たちはさまざまな面で活躍しました。

「土木という仕事柄、道をふさぐ障害物の撤収作業などは、すぐに対応できますし、迂回路などの道路情報もすぐに提供できました」と黒木社長。

「消防団活動でできた地域とのつながりが、仕事に役立つことも結構あります。地域があってこそ、私たちが仕事をできているんですよ。これからも、その地域のために、消防団活動を通じて貢献していきたいですね」

消防団協力事業所表示制度

「消防団協力事業所表示制度」とは、事業所の消防団活動への協力が社会貢献として広く認められると同時に、事業所の協力を通じて、地域防災体制をより一層充実することを目的とした制度です。

Topics

県民一斉防災行動訓練「みやざきシェイクアウト」を実施!!

県では、県民の「自助」の意識の向上を図るため、県民・事業者・行政機関などに広く参加を呼びかけ、11月4日（金）、昨年度に引き続き2回目となる県民一斉防災行動訓練「みやざきシェイクアウト」を実施しました。

県民の皆様の御協力により、68122人（337団体）に参加登録を行っていただきました。

来年度以降もこの訓練を実施していく予定にしていますので、さらに多くの県民の皆様に参加していただきますようお願いします。

川南町立通山小学校での訓練状況

「消TUBE」始動!!

県では、消防庁の「平成28年度 女性や若者をはじめとした消防団加入促進支援事業」を活用して、女性や若者をターゲットとした消防団加入促進のための映像「消TUBE」を作成しています。

この映像は、平成29年1月からテレビCMとして放映するほか、県の情報を動画で発信する「宮崎県庁楠並木ちゃんねる」でもご覧いただけます。

現役消防団員も出演しますので、ぜひご覧ください。

「消TUBE」は1月から配信予定

消防団だより「DAN!!」は紙と電子BOOKだけではない！

HPのように紙情報をWEBへと展開。さらに読みやすくパワーアップ。

紙版：消防団だより「DAN!!」特集ページ

紙面から WEBへ

WEB版：消防団だより「DAN!!」特集ページ

過去のアーカイブも
WEB記事として閲覧可能です

WEBやスマホでは
縦スクロールの方が
断然、読みやすい！

消防DAN　検索

消防団だより「DAN!!」特設サイトへ
スマホやタブレットはこちらから。

求ム、消防団員！

宮崎県には、14,793人（平成28年4月1日現在）の消防団員が、それぞれの職業を持ちながら、火災・地震・風水害から住民の生命と財産を守るためがんばっています。あなたも、消防団員として活動しませんか？
詳しくは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

女性の団員も増えています！

一人暮らしの高齢者宅を訪問しての防火点検だったり、子どもを対象にした防災教室また、人口呼吸や応急手当の普及指導など、細やかな視点を活かしての防災啓発などを行なっています。

県内女性団員
342人

私にもできることがあったんだ。

入団したのは将来実家を継ぐために東京から帰って来た20歳の時。私たちの団では年2回、火床検査といって各戸を訪問して家の危険箇所などを見て回ります。同じ地域にいながら接する機会のなかった方など、地域とのつながりができたのが、私にとって何よりの財産。入団したことで、仕事でも普段の生活でも、まわりのことを考え、思いやりを持てるようになったと感じています。

都城市消防団
高城方面隊第3部
園田 和貴（かずき）さん

地域の安全のために『一致団結！』

DAN!!

宮崎県消防団だより「ダン!!」

[Vol.09]
平成28年11月発行

[発行]
宮崎県総務部 危機管理局 消防保安課
〒880-8501 宮崎市橘通東2丁目10番1号
TEL0985-26-7627 / FAX0985-26-7304

[企画編集・デザイン・印刷]
株式会社 宮崎南印刷
〒880-0911 宮崎市大字田吉350番1号
TEL0985-51-2745 / FAX0985-52-2682

日本のひなた宮崎県